

---

# P.S.Y-outhful Death

上原 兼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

P . S . Y - o u t h f u l D e a t h

### 【Nコード】

N 7 2 4 1 X

### 【作者名】

上原 兼

### 【あらすじ】

以前、携帯サイトにて連載していた作品です。修正しながらUpしていこうかと思えますのでよろしくお願いします。

謎の伝染病により異能力者があふれてしまった世界で、ただ一人無能力者として生きる主人公。力の序列こそが正義とされるこの世界で主人公は何を考え、どう生きていくのか。そして彼が力を手に入れた時、何が変わるのか。彼が力を手に入れてから物語は動き始めます。

Prologue Of P・S・Y・o・u・t・h・f・u・l D e a t h (前書き)

フィクションです。

## Prologue Of P・S・Y・outhful Death

左腕と左脇腹の骨を数本持つて行かれた。激痛で気が遠くなるが問題は無い。右腕さえ動けばまだ戦う事は出来る。  
少年はそう自分に言い聞かせた。

「（もう一度、何度でも）」  
黒く染まった右腕を強く握り込み、突破口を探るべく眼前に聳え立つ異形の敵を睨みつける。

絶対の覚悟を持ってこの地に足を踏み入れた少年だったが、これほどの魔境を予想してはいなかった。自らの信念の前に立ちほだかる障壁は、彼の想像を遥かに超えていたのだ。

「（障壁?）」  
いや、そんな生温いモノではないと、少年は自身の考えにかぶりを振る。悪夢、この状況はそう表現しても大袈裟ではないはずだ。きつと以前の自分ならば、恐怖に震えて動けなくなっているか、どうやって逃げ出すかの思案に終始していただろう。いや、正確にはそれしかできなかったと言うべきか。何も変える事が出来ない自分を恨み、虚勢を張って生きていくだけの抜け殻。そんな自分を思い出し、少年は少しだけ笑った。

左腕をだらんと投げ出したまま少年は肩幅に足を開き、次の攻撃に備えて身構える。

それから改めて敵の体躯の異常さに舌を鳴らした。身の丈五メートルはあるつかという巨躯の黒き獣。その体躯にかなった膂力と、似つかわしくない速さを兼ね備えた人外の獣である。

その獣の放った腕を薙ぐだけの攻撃ですら、少年はかわす事が出来

なかった。並の異能者であれば、一瞬で圧殺してしまうであろうその破壊力が、獣の姿をさらに巨大なものと錯覚させる。その存在感は周囲の闇を呑み込んでいるような、月の光さえ遮ってしまうようなものだった。

人が獣か。そのどちらともつかない姿は最早この世の生物のどれにも当てはまらない。

だが少年は知っていた。目の前の獣は人なのだと言う事を。

それを証明するかのように、自分を誇示するかのように獣は怒号を発した。それは人の声帯から発せられるものではなく、機械音と獣の唸り声を混ぜ合わせ、増幅回路を通したような嫌悪感を抱かせる音。

『愛スル者ヲ想ツテ何ガ悪イ!!』

『幸せセナ時ヲ取り戻ソウトモガク事ノドコガ悪イ!!』

『ソレガ例え私のエゴダトシテモ、この世界を見てみる！ 強者が弱者を虐げ、食い物にし、誰もが自らの欲望に忠実に生きているではないか!? 大厄再ガ世界を変えたのではない！ 人がそれを望んだのだ!!』

『私は間違つてなどいない……私が強者である限り、誰も私の願いを奪う事は出来ない。世界と私の願いは一つ。そしてそれが唯一無二の真理なのだから!!』

頭と脊椎に直接響いた叫びは、悲しみにも似た響きを帯びていた。彼の願いとは誰しもが抱く人の業と言ってもいい。

だが、

「人の痛みを糧にして成り立つ幸せに何の意味があるって言うんだ……。  
自分の幸せの為に誰かが泣いたり、誰かが傷ついても何も感じない  
って言うのか……」

少年は痛みを知っている。人の痛みも、自身の痛みも。たぶん、世界中の誰より。

「何も感じないって言うのなら、それはもう人の願いじゃない。修羅の願いだよ。悲しみも、苦しみも……アンタだけが受けた傷じゃない……」

にわかに変色を始める右の黒瞳、右腕から発した闇の奔流は、肩へ、足へ、そして最後には右半身全体を包み込んだ。

人は一生の内に、多かれ少なかれ奪われ失う事を経験し、悲しみに打ちのめされる。

それでも、

「それでも人は、それを背負って生きていかなきゃならない……。どんなに苦しくても、悲しくても背負った荷物を誰かに肩代わりさせちゃいけない。自分の業は自分で背負えよ！！ 他の誰かを巻き込んでんじゃねえッ！！」

叫ぶと同時に、意思の光が瞳を朱に染め、やがて少年の背に漆黒の翼が翻る。

「タダ耐エル事シカデキナイ薄弱ナ人間ガ偉ソウナ事ヲ言ウ！！  
ソナ人間ガコノ世界デ生キテイケルモノカ！！」

獣は怒気と風とを巻き込みながら、左右で形状の異なる腕を少年に振り降ろすべく始動させた。

少年は一度だけ瞳を閉じて、ここまでの道のりを思い返し、そして今一度の猛る声。

『人である事を諦めた、化物の言う事かッ!!!』

煌めく黒翼が爆散し、四散した粉塵を身に纏い、少年の体は爆ぜるが如く弾けた。

P r o l o g u e O f P · S · Y · o u t h f u l D e a t h (後書き)

厨二病が嫌いではない。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7241x/>

---

P.S.Y-outhful Death

2011年10月19日03時39分発行